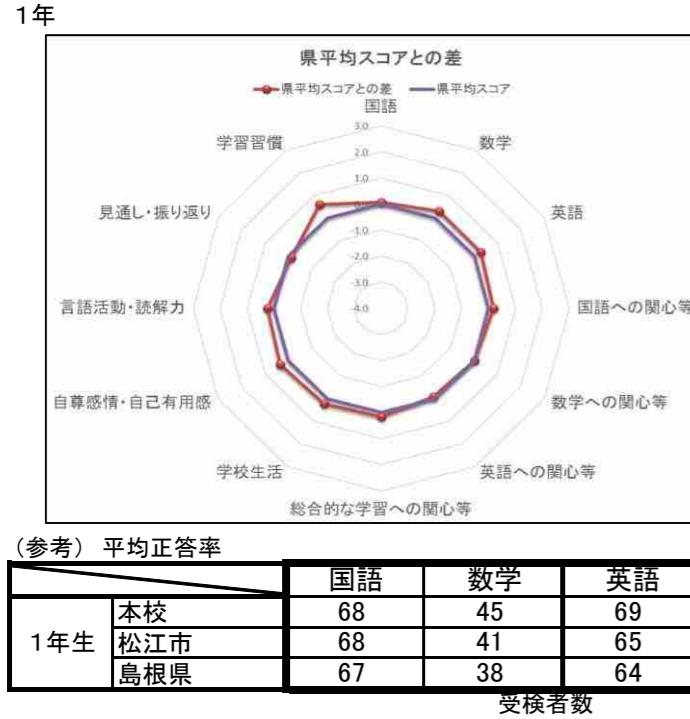


平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立第一中学校)

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	国語 ○大問二、三、四は概ね県平均を上回っており、文章の理解や根拠を明確にして文章を構成する力は育っていると考える。 ●大問一の漢字の読み、単語の区切りの理解が不十分であった。	・文法の「言葉の単位」について、単語と文節をきちんと理解できていない解答が多くあった。言語事項の学習では説明に陥らぬよう言語活動を活かせるように工夫したい。
	数学 ○ほぼ全問、県平均よりも正答率が高い。 ○関数の問題の正答率が高い。 ●県平均より標準偏差が大きい。 ●場合の数の問題の正答率が低い。	・正答数0の生徒がいることによって標準偏差が大きくなっているため、数学に対して意欲的に取り組めるような指導を工夫する。授業の中で一人で考える活動を習慣づけていくことも必要である。 ・場合の数については、2年生で再度学習することになっている。その際に、小学校段階の復習も含めて定着を
	英語 ○ほぼすべての問い合わせで県の正答率を上回っている。 ○語彙の知識・理解の問題は正答率が高い。 ●長文の要点を読み取る力が不足している。 ●英作文の問題に対して無解答率が高い。	・長文や対話の要点や流れを読み取ったり、応答する問題を、授業やテストなどで慣れさせていく。 ・自分の考えや意見、気持ちを表現する活動(特に書く活動)を取り入れていく。
2年	国語 ○毎時間の授業で、漢字テストを行っている成果なのか、漢字の読み書きの力がついてきている。 ●自分の考えを持ち、それを的確に伝える文章作りの力が弱い。	・読みとったことを自分の言葉で発表する活動を増やす。 ・自分の考えを書く活動を増やし、相手に的確に伝わる文章が書けるように指導する。
	数学 ○全体としては県を上回る正答率である。 ○特に連立方程式を解く問題は正答率が高い。 ●ヒストグラムのデータの特徴を説明する問題や、数の規則を見つけ、文字を使った式に表す問題の正答率が低い。 ●説明する問題では無回答が多い。	・授業において、ペアやグループで考え方を説明する場面を増やすとともに、考え方を数学的な表現で書くことができるよう指導する。
	英語 ○授業で小テストを継続して行っており、語彙の知識・理解や読み取りはおおむねできている。 ●リスニングの対話の応答を苦手としている。 ●英作文の問題の無解答率が高い。	・対話の表現をくりかえし練習して定着させる。 ・学年で共通した英作文の活動を増やす。ワークシートの作成は学習段階に応じた工夫をする。

(2)各学年・各教科の調査結果チャート



各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かつた」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(3)生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	授業改善に関わる事項 ○毎時間の授業であてての提示をし、目的をもって授業に取り組むことができている。 ○発表の機会や話し合い活動の充実が図られていることが肯定的割合が高いことで証明されている。 ●「授業では、最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」という項目に対しては、肯定的割合が低い。	・授業のめあての提示については、本校独自に作成した「めあて」「振り返り」のマグネットカードを設置し、どの教科も取り組んできた。また、授業の展開部分で学び合い・話し合い活動を取り入れることを小中一貫で取り入れてきた。 ・授業内で振り返りの時間を確保できるよう各教科で授業改善を図りたい。
	家庭学習に関わる事項 ○「家で学校の宿題をしている」と回答する割合が非常に高い。 ●「先生は効果的な家庭学習の仕方について指導してくれる」と回答する割合は低い。	・適切に宿題を出すこと、自主学習ノートを毎日取り組ませ提出させることで習慣化を図っている。今後は内容の向上を図るために、自主学習ノートの良い取り組みを他の生徒に紹介したり、教育相談等の時間を利用して、個々の学習状況に応じた声掛けやアドバイスをしたりしてさらに充実させていく。
2年	授業改善に関わる事項 ○授業のめあてやねらいを意識して学習に取り組むことができている。 ○予習をして授業に臨む生徒が多く、授業の中で発言等の機会を活かし意欲的に取り組む生徒が多い。 ●「授業の終わりに振り返る活動をよく行っている」の項目で肯定的回答の割合が県と比較して差が大きい。	・授業内容の振り返りの時間確保と方法の工夫を、教科を中心しながら学校全体でしていく。 ・話し合い活動の機会を増やし、意見の交流を通して自分の考えを確認したり深めたりすることで学習意欲の向上を図る。
	家庭学習に関わる事項 ○「普段、1日あたりのメディアに関わる時間、ゲームをする時間」が3時間以上の生徒の割合は、県に比べ低い。 ●「普段や学校が休みの日の学習時間」が2時間以上の生徒の割合は県よりやや高いが、1時間以下の生徒の割合が県よりも高くなっている。	・家庭学習の方法・内容について、具体例の紹介や助言を図るために学年部と教科で連携を図る。また、生徒自身による短期の目標設定、計画的な学習の実践、自己評価という流れを作り、家庭学習の習慣化を支援していく。

(4)生活・学習に関する意識調査の結果

